子どもを支えるために
～子ども理解を考える～

リーフレット作成と活用にあたって

私たちは、子どもを支え、子どもが笑顔で安心して過ごせる学校生活を願い、今年度は、子どもを真ん中に据えた「子ども理解」を中心にリーフレットを作成しました。

各学校で、子どもの言葉や姿からその背景を探る子ども理解、それに基づく具体的な指導・支援を考える、チームでの共通理解や保護者との連携などの参考資料として、活用していただければと思います。

長野県総合教育センター生徒指導・特別支援教育部

チームでの共通理解のポイント

○　観察の観点を明確にしよう

・複数の目で観ることで、多角的・多面的な子ども理解へ

・情報収集の際は、事前に子どもを観る観点を決め、共有しておくことが大事

・課題だけでなく、「強み」にも目を向けよう。そこから指導・支援の糸口が見えてくる！

子どもの日常の様子を観察する観点（例）

観点	強み	課題
行動面	きまりや時間を守ることができる	急な予定変更があるとパニックに
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ面	自分の考えや気持ちを周囲の人に伝えられる	相手の言葉を真に受け、過剰な反応をする時がある
学習面	学習意欲が高く授業中に自発的な発言が多い	空間認識が苦手であり、実技教科に困り感がある

○　情報を整理・分析するには情報の視覚化しよう

・観点別に集めた情報から実態把握するには目に見える形で整理していくのがコツ
（例）ホワイトボード、チェックシートの利用など

○　専門スタッフを加えて、子ども理解を深めましょう

・背景を検討する際には、関係機関からの専門的な見立てや助言が必要になるケースも。つないだ時が連携のスタートになる　　（例）医療機関、児童相談所、警察など

保護者との前向きな連携のポイント

＜保護者の願い（例）＞

・我が子のことを担任に理解してほしい

・我が子が学校の指導・支援を受ける中で、前向きに生活してほしい　　など

様々な思いや気持ち、願いをもっている保護者とどう向き合えばよいのか？

○　保護者の「気持ち」を理解するように傾聴し、話を聞いていこう

・話しやすい雰囲気づくりには、「そうですか」と相づちを打つことが大事

・傾聴する時には、「～と思っていらっしゃるのですね」と保護者の気持ちに理解を示して、話を聞く

○　子どもを中心にして話し合おう

・「お子さんが学校で楽しく過ごせることが一番ですね。そのために何ができるかを、一緒に考えていきましょう」というスタンスで

○　保護者と子どもを支えるパートナーになろう

・当たり前と思っている子どもの姿の中にも、変化や成長の姿がたくさんある。子どもの頑張っている姿を見逃さず、連絡帳や電話などでまめに伝える

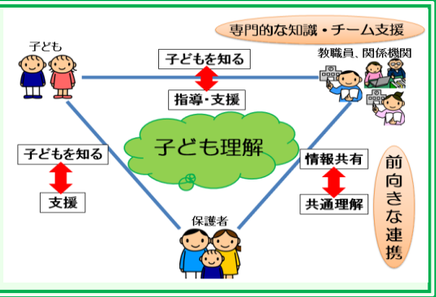
子ども理解をするために

○　「子どもを知る」から指導・支援へ

○　チームでの共通理解

○　保護者との前向きな連携

できるところから始めよう。この三つの結びつきが「子ども理解」につながる！



「子どもを知る」から「指導・支援」へ

重要! 「よく見て！」観察のポイント！ → 重要! 「なぜ？」背景（特性）を考えよう！ → 保護者や教職員、関係機関と相談しましょう

「やってみよう！」指導・支援のポイント！

「あれ？」うまくいかない

行動面

席を離れる、教室を出ていく、話を聞かない、大声を出す…

- 移動や学習はスムーズにできる？
- 学習全般で見られる？
- 特定の教科、教師、場面で見られる？
- きっかけはある？
- 周りの環境は？
- 学習面は？

何をやるのかわからない？
見通しがもてない？

長い時間続けるのが苦手？
じっとしていられない？
友達の動きや掲示物が気になる？

周りの音や光が気になる？

学習が難しい？

見通しがもちにくく不安だったり、落ち着かなかったりする子どもには

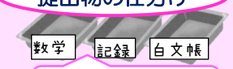
環境を整える（視覚化・構造化）

物の場所や時間、話し言葉、感情、出来事などを見えるようにして、見通しがもてるようにします

活動時間

残り時間が見てわかります

提出物の仕分け



提出物を種類ごと入れ物で分けます

気持ち

自分の感情をイラストや数値化で表現します

道具の位置

道具の定位置を決めておきます

スケジュールを示す（スケジュール化）

日程や活動内容を見てわかるように工夫することで、見通しをもつことができ安心できます

スケジュール

時間や内容、行動が分かるようにします。見通しがもてるよう自己選択・自己決定を大切にします

手順表

何をやるか、内容や手順が分かるものがあると、見通しをもって取り組めます

コミュニケーション面

友達とトラブルを起こす、暴力、暴言、一人でいる…

- きっかけは？
- 特定の人や場面で起こる？不特定に起こる？
- 前後の状況は？
- 動きや会話、言葉の様子、表情は？
- 自分から一人になることを選ぶ？

気持ちをうまく伝えられない？
感情のコントロールが苦手？
関わり方がわからない？
感情面を理解することが難しい？

興味・関心のある話が好き？
自分一人の世界が好き？

音や声、光や風、視覚情報などの刺激が気になる？

学習が難しい？

気持ちのコントロールや、人との関わり方が苦手な子どもには

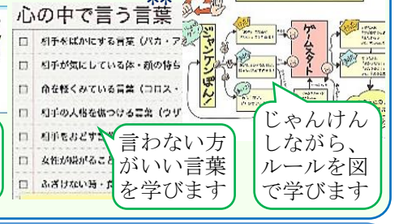
必要なスキルを身につける

感情のコントロールやよりよい関わり方など社会性のスキルは、SST を繰り返し行うことで、身に付けることができます

SST 絵カード＊

よりよい関わり方を絵カードで学びます

心の中で言う言葉＊＊



言わない方がいい言葉を学びます

じゃんけんのルール＊＊

じゃんけんしながら、ルールを図で学びます

関わり方の工夫

興味・関心のあるものを活動に据えると、無理なく関われます

人と関わることが難しい場合、活動する時間や場を決めて参加を促し、一人の時間も確保します

刺激を減らす

問題のように思える言動の背景に、感覚過敏による苦手が隠れていることがあります

「このくらいは耐えられるだろう」と楽観することは✕。取り除く方法を考えます

聞く・話すを明確に

ルール
静かに聞く
①話を聞く
②話し合う
③発表

耳栓・イヤマフ

大声の指導

学習能力の差

通常の学級において、学習能力には当該学年の±２歳以上の幅があると考えられています
幅をもたせた学習内容を考えてみましょう

【出典】＊ ソーシャルスキルトレーニング絵カードD
編・著ことばの発達と学習室Ｍ 株式会社エスコアール
＊＊ 楽々かあさん公式HP：https://www.rakurakumom.com

学習面

やる気がない、寝ている、板書を写さない、文章題が解けない、漢字が書けない…

- 学習全般で見られる？
- 特定の教科、教師、場面で見られる？
- 板書は写せる？
- 発言の様子は？
- ノートの字や図は書ける？
- 宿題の様子は？

音や声、光や風、視覚情報などの刺激が気になる？

目の動きや手の動き、目と手の協応に困難がある？

「読み」が難しい？
「書き」が難しい？
「計算する」が難しい？

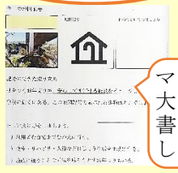
知的に偏りがある？

見にくさを感じていたり、感覚過敏があったりする子どもには

教材の工夫

特定の領域に苦手がある場合、教材を工夫することで「わかる」「できる」につながります

書きの工夫



マスや枠を大きくして書きやすくします

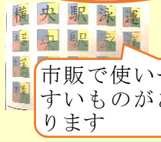
読みの工夫

刺激を減らす、色を付ける、拡大するなど読みやすくします

ICT の活用

板書の撮影、アプリ使用など自分でできるようになります

市販の教材



市販で使いやすいものがあります

「子どもを知る」→「観察」「背景（特性）」が大切！

「子どもを知る」ためには、丁寧に観察することが必要です。いつ、どのような状況で起こるのか、きっかけは何かを見極めましょう。情報がまとまったら、なぜその姿になるのか、背景（特性）を考えます。難しい場合は、保護者や他の教職員、関係機関に相談してみましょう。背景（特性）によって指導・支援は変わります。

検査などの情報

検査結果やアンケートからとらえることも大切です
- Q-U, アセスなど
- WISC-Ⅳ, KABC-Ⅱ, 田中ビネー, MIM, SM 社会生活能力検査など

「自己決定」

子どもの気持ちや意思を丁寧に聞いたり、指導・支援についてどう思っているのかなどを確認したりして、子どもが納得した上で進めることが大切です。確認する際には、選択肢の中から選ぶ経験を積み重ねることで、自己選択・自己決定の力が付いていきます。

ポイントが違っているかもしれません。以下の点を見直してみましょう。

【観察・背景】
- 先入観でとらえている？
- 見方を変えてみる？
- いろいろな姿からとらえている？

…など多角的・多面的にとらえてみましょう。

【指導・支援】
- やり方は適している？
- タイミングは合っている？
- 声のかけ方は配慮している？

…など、子どもに合った指導・支援になるよう工夫しましょう。

【専門性を高める】
- 本を読んだり研修したりして、専門的な知識を増やしましょう。

子どもにとって大切な環境
- 周囲に理解者がいる
- 適切な支援が受けられる
- 能力を発揮できる場所がある